

イズモの現場が問う「共生」 ～「多様な私たち」の安心～



2025年9月5日(金) 島根県外国人地域センター 堀西雅亮

①出雲の状況・地域特性

■多文化なイズモの状況

- 1990年代～2014年ごろ：大学、大手メーカーの工場、技能実習生、結婚…
→ボランティア日本語教室、留学生のサポート、国際交流…
- 2014年ごろから外国籍市民が急増→公的な「多文化共生施策」へ
→「出雲市多文化共生推進プラン」の制定(2016年6月) ※現在第3期

■イズモの地域特性

- 就労先が限られている →県外への転出
- 限定的な多文化リソース(人材、経験、機能…)
- 豊富なボランティア活動・地域活動、その経験



② イズモの現場(1) 子どもたちの姿から

■ こどもサポートプロジェクト

●めざすもの:

言語的・文化的に多様な子どもたち(=すべての子ども)が、そこで受け入れられると実感でき、安心して過ごすことができる居場所(=社会)をつくる。



●活動:

- ① 言語的・文化的に多様な子どもの居場所づくり
- ② ポルトガル語母語教室(子どもの母語保持・習得)



①言語的・文化的に多様な子どもたちの居場所

●対象:

→ルーツのある国・地域、言語、文化などにかかわらず、
すべての子ども(主として小学生・中学生)



●場所:

→出雲市内3か所(斐川、塩治、四絡)で、
年間を通して開催(各会場1~2回／月)

●活動内容:

→遊び(ゲーム、スポーツ、創作など) + ときどき学習(宿題など)

●スタッフ:

→大学生、中学・高校生、大人など多様なスタッフ(言語、地域、経験…)

①言語的・文化的に多様な子どもたちの居場所

- プログラムは決まっていない(遊び、学習、言語…)
→自分が過ごしたい方法で、思い思いに過ごす場



- 子どもだけでなく、大人にとっても居場所
→支援する／支援される 関係を超える場

- 「私は日本人」、「外国人の子が…」、呼んでほしい名前
→アイデンティティ・「自分自身」に向き合う場



- 友だちを誘っていっしょに参加する子ども
→いっしょに遊びたいから、いっしょに行く場

②ポルトガル語母語教室(子どもの母語保持・習得)

●対象:

→本人または親がポルトガル語を母語とする小学生・中学生など



●場所:

→出雲市内2か所(斐川、塩治)で開催
(各クラス1~2回／月)



●活動内容:

→ポルトガル語の読み書きの学習、ゲーム・創作活動・絵本などを通じた言語・文化の保持・習得、季節のイベント、体験など

②ポルトガル語母語教室(子どもの母語保持・習得)

●「友だち(※日本語が母語)も、
 いつしょに行っていい?」



日本語が母語の子どもの希望

ポルトガル語が母語の子どもの希望



受け入れる先生



「友だちだから、いつしょに行きたい」が
示しているものとは?



③イズモの現場(2) 「死」と出遇うこと

■お寺での関わり

- 葬儀(他宗教、突然の死、火葬…)
- 文字通りの「通夜」
- 遠く離れた日本で家族の死に遇う
- 亡き家族の遺品
- 子ども会、行事、相談…



「死」と出遇う場は、「生」と出遇う場でもある
⇒日々を生きる現場、安心を求める現場



③イズモの現場(2) 「死」と出遇うこと

■親と死別する子ども(私が出遇った子どもたち)

- 長く闘病していた母親が亡くなる
- 来日して間もなく、父親が若くして亡くなる
- 母親よりもかなり年上の父親が急に倒れ、亡くなる



- *それぞれの、悲しみ・辛さ・苦しさの表出
- *ひとり親との関係、親の苦悩
- *死を受け止めていくこと、日々を生きること



④現場が問う「共生」

■何が「共生」であるか(現場から学んだこと)

- 「受け入れられている」安心
→だれでも、自分が自分として生きられる場(社会)
- 複数の言語・文化の中で生きる人にも「選択肢」があること
→「支援され続ける苦しさ」からの解放・安心
- 「友だちだから」いっしょに参加する
→「交流」を超えるもの、「属性」でなく「その子(人)」のニーズ・希望
- 「多様な私たち」が、それぞれに、関わり合いながら生きる社会
→「外国人との共生」ではなく、「包摶的な社会」への変容



④現場が問う「共生」

■「共生」を進めていくもの(3つの視点)

●日常・日々に何が起こっているか？ 希望や安心の中で生きられること
⇒一人の人間の「**生き死に**」「**生き方**」「**人生**」の視点

●人生のあらゆるステージに関わること＝日々のこと
→あらゆる組織・分野に関わること⇒「**分野横断的**」な視点

●現場(日常、背景、取り組み、リソース….)を知る
→分野や組織を超えたつながり⇒「**関わり合いが生む力**」の視点



「包摶的な社会」への変容=「**多様な私たち**」の安心

中国・四国ブロック多文化共生地域会議

イズモの現場が問う「共生」～「多様な私たち」の安心～



ありがとうございました。

堀西雅亮